

第2回
Unified Team Challenge
＜実施報告書＞



2025年9月9日



一般社団法人日本ドッジビー協会

実施要項

日時： 2025年8月24日（日曜日） 13:00~15:00

会場： 文化シャッター株式会社 本社2F BXホール
東京都文京区西方1-17-3

主催： 一般社団法人日本ドッチビー協会 <DBJA>

協賛： 文化シャッター株式会社

参加料： ひとりあたり¥500-（傷害保険加入費・消費税 等一式を含む）

参加賞： 文化シャッターオリジナル・ミニDISC／クールウェットシート

参加者内訳

- ・放課後デイサービス施設より、 9名 3チーム
- ・就労継続支援B型施設より、 3名 1チーム
- ・特別支援学校OB友人同士で、 2名 合同1チーム
- ・生活介護施設職員（健常者） 1名 合計15名、5チーム

その他

- ・付き添い職員・保護者 約15名
- ・スタッフ 文化シャッター社員~4名 / DBJA~6名 総合計40名



当日スケジュール

- 12:30～ 入場・受付開始
- 13:00～ イベント開始
主催者／日本ドッチビー協会 代表理事 岡本紀彦 挨拶
事務局長より写真撮影に関するお願い
- 13:10～ 準備体操
- 13:40～ 今日のプログラムの全体説明 ～ おこなうことの流れ
- 13:50～ チャレンジ1) キャッチ ×2回
- 13:15～ チャレンジ2) ドッジ ×2回
- 13:40～ チャレンジ3) 3点パス ×2回
- 13:55～ 休憩
- 14:10～ チャレンジ4) スクエアパス ×2回
- 14:35～ チャレンジ5) ディスゲッター ×1回
- 14:50～ 成績発表・主催者挨拶・写真撮影
- 15:00 イベント終了

【プログラムの内容】

1) ドッチビー・キャッチ

スタッフが投げるドッチビーをキャッチする種目です。「速い」「普通」さらに「ゆっくり」と3段階にすることによって、参加者に応じて難易度を変えることができ、ドッチビーは柔らかいため、恐怖心を取り除く効果も期待できます。

2) ドッチビー・ドッジ

スタッフが投げるドッチビーを避ける種目です。1)と同様に「速い」「普通」「ゆっくり」と3段階にすることによって、参加者に応じて難易度を変えることができます。また、スタッフが足元や顔の周辺などに投げ分けることによって上手な逃げ方を覚えることが期待できます。

3) ドッチビー・3点パス

立っているスタッフに向けてドッチビーをパスする種目です。「近い」「中間」「遠い」という3段階の距離を設定し、狙った目標（スタッフ）に正確に投げる正確性、距離に応じてスローの強さを調整する能力が求められます。

4) ドッチビー・スクエアパス

3人のチームメンバーに1名スタッフが加わっての4人が5mの四角形に陣取り、90秒の間にドッチビーを落とさずにできるだけ多くパス回しをする種目です。捕る、投げるの動作を早く、そして仲間が捕れるスローをすることが大事です。

5) ドッチビー・ディスクゲッター

縦横3枚ずつのパネルに向かって強く正確にドッチビーを投げて、パネルを抜き落とすストラックアウトのような種目です。目標物があることによってディスクを投げる際の正確性を獲得することができます。また、人ではなくパネルに向けて投げるため、初めての人も思いっきりよく投げるすることができます。

【開催経緯～講評】

既に5年も前の事になりますが2020年2月に4回目になるUnified Flyingdisc Session(以下UFS)をおこなった当時、実施内容の改良ならびにスタッフの習熟や充実、さらには参加希望者のリストや関係施設・団体との関係構築など、あらゆる側面で良い状況が構成されつつあり、本格的に障がい者ドッチビーをこれから世の中に出していこうとスタッフの意気も盛んで、その年の年末には特別支援学校を集めた関東大会が企画されていました。

ところが同年3月に新型コロナウイルスによる自粛が始まった結果、これら築き上げてきた金銭に変えられない、重要な財産を全て失うことになりました。



今回このUnified/ユニファイドイベントが復活開催されたきっかけは、文化シャッター社の関係者様より、地元、文京区での社会貢献活動でお付き合いがある障がい者関係施設の職員さんよりドッチビーイベントが開催されなくなって通所者さんが残念がっている声が多く聞かれるとの話があったこと、我々、協会もおこないたい気持ちはあるが場所の確保が容易ではない、などの会話を

したことによります。それからはあっ、という間に文化シャッター株式会社 本社2FのBXホールを会場として提供して下さる事が成立したことによって開催が実現しました。

2020年以来、丸5年を経た2025年6月、最後にUFSを開催した時と同じく文化シャッター株式会社 本社2FのBXホールにて復活とも言えるUnified Team Challenge(以下UTC)を開催することになりましたことは単なる偶然ではなく、何か必然性を感じるころもあって過去の記憶とともに、いろいろな思いが込み上げてくる少し特別な会場になっています。



さて以前、実施していたUFSは基本的に当日に楽しみながら基礎的な投げる、捕る、避けるなど練習をおこなった後、その成果として最後に最もポピュラーなドッチビーを使った種目のディスクドッチゲームをおこなうということが基本になる設定のイベントでした。

今回おこなったUTC/ユニファイド・チーム・チャレンジは障がいのある方々に挑戦していただくにあたり、ディスクドッチゲームをおこなわず、ゲームの基本要素となる「投げる」「捕る」「避ける」動作をあえてバラしてゲーム化しました。そしてそれを3人が1チームとなってゲームの中で段階的に体験する形式のイベントに変化させました。

複数の種目を順番にチームで体験することによってコミュニケーションを図り、楽しみながらもフライングディスクの基礎になる動きを自然な形で練習することになることを願ってのプログラムですがこの狙いが正しいのか、意図したことが実現しているのか、まずは小規模にて3回程度、それらの検証を趣旨として開催しました。



1回目の開催は6月29日に、本当にスタッフも長く離れていたため、ほぼスタッフのリハビリが主の目的でオープンな募集の告知をせず、放課後デイサービス施設にご協力をいただいて3チーム、9名にお集まりいただき実施しました。



そして2回目となる今回、8月24日は以前実施していたUFSの参加希望者リストで募集告知をおこないましたところ、5チーム、15名の参加者にお集りいただきました。

いつもの事なのですが障がいを持った皆さんが集まると、基本的にテンションが高く、楽しい雰囲気になると以前より思っていました。今回もその通り、笑いの絶えない空間がいつの間にかできていて、スタッフが楽しんでいる光景がとても印象的でした。

なお3回目も10月5日で決定しており、さらに告知範囲を広げての募集を開始したところです。

快適な会場をご提供・ご協賛賜りました文化シャッター株式会社様には心より御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

